みやぎ建設新聞〔令和6年10月28日〕

人財 確保・育成 Human Resources

古川土地、積水ハウス東北

古川工高生70人が参加

大崎市で現場見学会

古川土地（大崎市 早坂竜太代表取締役）と積水ハウス東北シャーメゾン支店（仙台市 櫻井直樹支店長）は23日、宮城県古川工業高等学校建築科の1、2年生約70人を対象に「大崎市立おおさき日本語学校学生寮・建設現場見学会」を開いた。

見学会は、古川土地の早坂代表が学生寮の建設運営を担う受託者であることや、同校建築科のOBで構成される古工建友会の会長を務めている縁で、生徒に生きた教材として活用してもらうため企画した。

当日は、大崎市市民協働推進部政策課の熊谷賢一副参事（多文化共生担当）が、2025年4月開校予定で多文化共生の入口となる大崎市立おおさき日本語学校の概要を説明。続いて、積水ハウス東北シャーメゾン支店設計課の今野和宏プラチナ事業担当スペシャリストが、住宅を例に耐震性能、断熱性能の重要性を説いた。

説明する増井現場代理人

引き続き、学生寮の現場へ移動し、積水ハウスの増井利幸現場代理人が建設中の学生寮について、現在の作業状況などを紹介。見学中、生徒からは「建物の換気方法」「耐力壁」「遮音」に関する質問があり、増井代理人が丁寧に解説した。

今回見学した建物の規模は軽量S造2階建てで、1期整備棟は延べ1624・16平方㍍、2期整備棟は延べ963平方㍍（予定）。工事期間は、1期工事が25年3月末までで（進捗率21・8㌫）、2期工事は27年3月末まで。

古川土地の早坂代表は、同校の生徒を対象にさまざまな現場で現場見学会を実施しており「クレーンの重機工事、内部工事など、いろいろな職種を見てほしいとの思いから、完成すれば見ることができない部分の工種を見学してもらった。工程上、施工会社には不便を掛けるが、未来の建設人を育てるためにと協力してもらい本当に感謝している」と見学会を振り返った。

参加した2年生の伊藤来輝さんは「現場内だけではなく、現場の外に対しても安全に配慮していることを知った。実際に現場で見聞き出来るのは、とても良い体験だった」と話していた。